

第1期 国分寺市公民館運営審議会 平成28年度第16回定例会 要点記録

日時 平成28年12月20日(月)午後3時～5時

場所 国分寺市立本多公民館 講座室

出席者

委員 佐藤委員長・田中(英)副委員長・門委員・長谷部委員・橋本委員・萩原委員・戸澤委員・大澤委員・北邑委員・田中(雅)委員(欠席委員1人)

職員 山崎公民館課長兼本多公民館長・秋元恋ヶ窪公民館長・加藤光公民館館長・豊泉もとまち公民館長・本望並木公民館長・齋藤本多公民館事業係長・木場主任

1 連絡事項

(1) 配布資料確認

2 協議事項

(1) 答申について

①ワーキンググループの報告 第2グループ

委員：資料1に基づいて、第2グループのまとめの説明。

委員：社会福祉協議会と学校の地域づくりに対する取組が、どう公民館と結びついているのかを書いた方がいいのではないかな。

委員：社会福祉協議会の事業は、現在は公民館を会場にして実施しているが、今後はさらに地域づくりや人材育成にも取り組んでいきたいと考えている。

委員：大きく2つに分けてはどうか。地域会議という公民館の事業と、地域の団体が主体になり公民館が活かされているもので、1が社会福祉協議会、2が学校、3が自治会という形でどうか。

委員：3つに分けて、公民館が担っている事業という形にし、表現の仕方を考えてみてはどうか。

委員：公民館とどう協調しているかを書いたほうがいい。

委員：自治会、学校、社会福祉協議会がどうつながっているかを書くのは難しい。公民館としてどうあるべきという提言はできると思う。

委員：項目を分けるのは難しいかもしれない。

委員：天体の講座など市民との協働で行っているものを、学校と協働していつてはどうか。

委員：うどんづくりの事例を学校の項目に入れていくといいと思うが、公民館と協働しているケースが少ない。今後の課題として提言する形なら書けるのではないかな。

委員：社会福祉協議会は組織として取り組んでいるものはいいが、個々の事業は公民館と一緒にやっていないので書くのは難しい。

委員：学校がどう公民館と関わっているのかを明確に出したほうがいい。

委員：公民館からの視点の文章に変えたほうがいいと思う。

委員：ワーキンググループ2の内容は重要で、地域団体とネットワークを組んでいる。

委員：校長先生が代わるとつながり方が変わってしまう。

委員：恒常的に、公民館が学校とどうつながっていくかが重要である。

委員長：公民館のすることや公民館がどう役立っているのかを書く必要がある。社会福祉協議会が、人づくりをして、どうボランティアを入れているのかという方向性ができればいい。社会福祉協議会が見ている福祉と、公民館の対象は違う。ギャップが埋まらないといけない。組織の目標が違うということ的前提をまとめていくことが必要。学校と町会は近いと思う。国分寺市の相互扶助と社会福祉協議会との認識は違う。公民館で取り上げにくい生活困窮者や認知症の人に対する事業をどうまとめるか。

委員：公民館が取り上げにくい問題などのサポート支援を、社会福祉協議会は地域の人材を育成して、どう公民館と連携していけるのか、はっきり打ち出せるといい。

委員長：主体の分け方はよいと思う。課題整理をしたほうがいい。NPO法人などとの連携はどうなっているのか。

委員：NPO法人については、公民館で活動しているNPO法人もあるので、連携について今後考えられると思う。

委員：ワーキンググループとして、どんな事例があるのか、公民館とどう学校がつながっているのか、それぞれの公民館で補足してもらったらどうか。

委員長：各館で学校や自治会とつながっているところをまとめて、ワーキンググループ2に返してもらいまとめてほしい。

事務局：公民館と学校、公民館と自治会で、どのようなつながりをしているか事例を補足することとする。

②ワーキンググループの報告 第5グループの報告

委員：資料2に基づいて、第5グループのまとめの説明。

委員：日本語教室は、当日の参加者が少なくても、スタッフを減らすのは難しい状況がある。参加者が欠席の連絡をして来ないという問題もある。

委員：日本語教室の実態について事例を書く必要がある。

委員：それが重要である。

委員：公民館として実施する必要があるのかどうか、日本語教室の継続をどう進めるかの検討をしていく必要がある。

委員長：公民館の役目として、講座を直接実施するのではなく、教えられる人材を育成するという形に変えることも考えられる。国際交流を軸にしていくという考え方もできる。

委員：国際協会とのつながりをどう考えるか。

委員：外国人の困窮者の課題を公民館で取り組む必要があるかどうか検討が必要。

委員：日本語教室のスタッフを公民館が育てるとのことある。

委員：日本語教室と国際交流の2本立てで頭出しするのではどうか。

委員：国際交流を軸に、地域づくりの場のひとつとして、日本語教室を考える必要がある。

委員：英語を小学校の事業でしているので、今後、外国語が話せることは重要になっていく。

委員：国立市の公民館でも取り組んでいる日本語教室の実施方法について、どのようにしているか話を聞くというのはいかがでしょうか。

委員：それぞれの公民館の地域にあった国際交流、多文化交流をしていくことを提言することはできるが、それぞれの公民館で日本語教室をやりましょうというのはいかがか。

委員：まとめ方として、日本語教室というのではなく、多文化交流としてまとめたほうがよいのではないか。

委員：外国人の支援のうち、言葉の壁を取り払いたいというのが、国際協会の考え方である。

委員長：もう一度、まとめ方の視点を考えてまとめていただきたい。

委員長：次に、ワーキンググループのレポートのまとめ方について話し合いたい。

事務局：ワーキンググループのレポートのまとめ方として、柱立てがあつたほうがいいのかと考えた。①現状②効果③課題・展望・提案という形でまとめたかどうかという提案が、ワーキンググループ第1からあつた。

委員：分量があるテーマとないテーマがある。

委員：公民館運営サポート会議のまとめとワーキンググループのまとめと公民館のまとめで重なるものがある。

委員長：公民館としては、重なる部分についてどう考えるか。

事務局：重なるものについても、まずは全てそれぞれの部分で書いていただきたい。まとめる段階で必要なところを残す形としたい。

委員：答申の宛先はどこなのか。5館の館長に出すのであれば、答申として100ページもあるようなものを出すのはいかがなものか。

委員：資料的な価値とすれば残したほうがいい。簡単な要点をまとめて、それを館長に答申として出す。公民館の生き残りをかけた答申となると思うので、その点からも歴史や事例など多くを書いたほうがいい。

委員長：すでに文章化しているが、思ったほど膨大ではない。地域会議のワーキンググループでも5ページ程度なので、全体で30ページぐらいになる。各公民館運営サポート会議からそれぞれ3ページ、歴史を入れても100ページにはならない。資料として残すようにし、全文答申として活かすかどうかは、まとめる時に検討したい。素案の段階で100ページのものであっても、委員みんなで書いたものなので制限することは考えていない。誰に向けて答申を出すかということは非常に重要。形式的には各館長に出すものであるが、国分寺市教育委員会がこれからの公民館をどのように考えていくか、今後の教育委員会の公民館の指針として活かせるものにしていきたい。東京都全体の公民館のあり方に影響のあるものとなるといい。社会的なメッセージを多く含んでいて、その部分をどう総括的なものとしてまとめてい

くかという点で、事務局の力添えをいただきたい。公民館の危機の時代、国分寺市の公民館は教育委員会に理解されているので、実績を残す形としたい。書きたいことをしっかり書いてもらい、編集作業でまとめさせてもらう。文章が長い短いは問題ではないので執筆者に任せたい。

委員：公民館の良さをアピールするような答申としたい。

委員長：答申の広報の仕方についても事務局からの力添えがほしい。

委員：様式を決めてから執筆したほうがいいのではないか。

委員長：今回は最後の2つのワーキンググループになる。

(2) 管外研修について

事務局：資料3に基づいて説明。平成29年3月3日(金)を第1候補、29日、30日を第2候補にして、富士見市水谷公民館に問い合わせる。詳細については、事務局と研修先の水谷公民館と話し合う。

3 報告事項

(1) 平成28年度国分寺市議会第4回定例会について

事務局：公民館については、一般質問での質問、文教子ども委員会での報告は特になかった。施設予約システムについての質問があった。

(2) 平成28年度国分寺市教育委員会第11回定例会について

事務局：報告事項はなし。

4 その他

(1) 第53回東京都公民館研究大会について

事務局：申込みは完了した。課題別集会についてはまだ決定していないので、次回お知らせする。旅費については2月に支払いをするので、次回定例会に印鑑を持参していただきたい。

委員長：次回の日程は平成29年1月17日(月)午後3時30分からになる。以上で本日は終了する。